済生会高齢者福祉施設・児童福祉施設における服薬等に関する調査　～福祉施設への調査～

○曽我部　直美[1) 2)]　植松　和子[2)]　菅野　浩[3)]　大槇　昌文[4)]　柴崎　智行[4)]
森本　尚俊[5)]　田嶌　襄[6)]　原田　奈津子[2)]　山口　直人[2)]　松原　了[2)]
1）埼玉県済生会加須病院　2）済生会保健・医療・福祉総合研究所 3）済生会横浜市東部病院
4）済生会山口地域ケアセンター湯田温泉病院　5）特別養護老人ホーム　みなみがた荘
6）特別養護老人ホーム　彩光苑

【概要】
済生会の高齢者施設、児童福祉施設における服薬等に関する課題について、済生会病院の薬剤師がどのように関与しているのかについて、薬剤部を対象とした調査と福祉施設を対象とした以下 2 つの調査を実施した。これらの調査から福祉施設での薬の使用に関連する課題を抽出し、入所者の薬に関する安全性、適切な薬学的管理について薬剤師としてどのような支援が可能であるかを明らかにする。

1. 済生会高齢者福祉施設および児童福祉施設における服薬等に関する調査
（薬剤部対象）
【目的】福祉施設における服薬等に関連する課題を調査し、入所者の薬に関する安全性、適切な薬学的管理について、薬剤師としてどのような支援ができるかを明らかにする。
【方法】各病院の薬剤部長あてに福祉施設との連携についてアンケート実施
【対象】済生会 82 施設（病院 81、福祉施設 1）

2.　済生会高齢者福祉施設および児童福祉施設における服薬等に関する調査
（福祉施設対象）
【目的】福祉施設における服薬等に関連する課題を調査し、入所者の薬に関する安全性、適切な薬学的管理について、薬剤師としてどのような支援ができるかを明らかにする。
【方法】各施設の施設長あてに服薬等に関わる課題についてアンケート実施
【対象】介護老人保健施設、老人福祉施設、児童福祉施設、障害者福祉施設、重症心身障害児施設など済生会福祉施設 117 施設

本稿では 2.　済生会高齢者福祉施設および児童福祉施設における服薬等に関する調査（福祉施設対象）について述べる。

【キーワード】
高齢者福祉施設、児童福祉施設、インシデント、薬剤師の支援、医療安全

【緒言】

済生会は多くの福祉施設を有しており、入所者への薬物治療も継続的に行われることが多いと考える。薬物治療の対象者は高齢者が多数であるが、少数ではあるが小児の入所者も対象となる。高齢者では近年、服用方法、使用方法が複雑な薬剤や副作用のモニタリングが必須である薬剤を服用しているケースや多剤併用による相互作用の確認をする機会も増加傾向にある。又、小児に於いても多種多様な疾患があり、薬物治療も投与量の調節、飲ませ方、副作用症状の所見など複雑かつ細かい対応が必要となることが多くある。医薬品情報の入手においても多様化した情報から適切な内容を選択することが難しい場合もある。

このように医療安全、医薬品適正使用の観点からも、服薬等に関連する課題への対応は重要となっている。そこで全国済生会病院薬剤師会は、済生会保健・医療・福祉総合研究所、福祉施設会と連携して以下に示す２つの調査研究を実施することとした。この調査研究は、福祉施設での薬の使用に関連する課題を調査し、入所者の薬に関する安全性、適切な薬学的ケアについて薬剤師としてどのような支援が可能であるかを明らかにすることを目的とする。

【目的】

済生会福祉施設(以下「福祉施設」)における服薬等に関する課題・薬学的ケアがどのように実施されているのかを調査する事で、福祉施設側と情報共有・検討し、薬剤師が福祉施設へどのような支援ができるかを明らかにする。

【方法】

済生会福祉施設を対象に福祉施設長宛にメーリングリストを用い、記名式で服薬等に関わる課題についてアンケートを実施した。

以下に調査票を示す。

調査票

・該当する施設の種類・施設名を教えて下さい。

種類　□介護老人保健施設　□老人福祉施設　□児童福祉施設　□障害者福祉施設

□その他の施設（　　）

施設名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

1．貴施設では薬剤師の関わりがありますか。　□はい　□いいえ

＊はい　の場合　設問２へ　＊いいえ　の場合　設問３へ

2．１の設問で「はい」の施設へお聞きします。

2-1 薬剤師の勤務体制について

□常勤　□非常勤　□委託　□その他（　　）

2-2 勤務の頻度について

□毎日　□週に数回　□週に一度　□月に数回　□その他（　　）

2-3 薬剤師の所属について

□済生会（施設名：　　）　□済生会以（　　）

2-4 薬剤師の業務内容について（複数回答可）

□調剤　□配薬カート等へのセット　□配薬　□服薬指導　□回診

□カンファレンス等に参加　□その他（　　）

3. 1で「いいえ」の施設へお聞きします。

3-1 薬の管理をしている職種を教えてください。（複数回答可）

□看護職　□介護職　□事務職　□相談職　□その他（　　）

4. 薬の管理・服薬に関する問題はありますか。　□はい　□いいえ

＊はい　の場合　設問5へ　＊いいえ　の場合　設問6へ

5. 4で「はい」の施設へお聞きします。

5-1 問題の内容を教えてください。（複数回答可）

□服用方法の間違い　□飲み忘れ　□重複投与　□副作用を見逃した　□患者違い

□保管方法の間違い　□落薬　□その他（　　）

5-2 その際の対応はどの職種がどのようにしましたか。

職種　　方法 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

5-3 再発防止策はどの職種が立ててどのように職員に周知していますか。

立案職種　　周知方法 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

6. 薬の効果、服用方法、副作用、保管等に関する疑問を調べたことはありますか。

□はい　□いいえ

＊はい　の場合　設問7へ　＊いいえ　の場合　設問8へ

7. 6で「はい」の施設にお聞きします。

7-1 その時どのように調べましたか（複数回答可）

□薬剤師に確認　□書籍　□インターネット　□その他（　　）

8．職員向けに医薬品の安全使用に関する研修会は開催していますか。

□定期的に開催　□必要時に開催　□行っていない　□その他（　　）

9．8 で研修会を開催している施設にお聞きします。

9-1 研修会の講師の職種を教えてください。（複数回答可）

□医師　□薬剤師　□看護職　□介護職　□相談職　□事務職
□その他（　　）

10．薬の安全使用に関する手順書の作成についてお聞きします。（複数回答可）

□作成していない　□自施設のみで作成している　□連携先と作成している

□作成を検討中　□連携先を検討している　□その他（　　）

11．利用者の服薬や薬の管理、福祉施設における薬の取り扱いについてご意見、ご質問等ございましたら自由にご記載ください。

【結果】

全国の済生会高齢者福祉施設・児童福祉施設 117 施設に調査し 59 施設より回答が得られた。回答率は 50.4%であった。薬剤師の関りのある福祉施設は 59 施設中 34 施設であった。薬剤師の所属は済生会･済生会以外が共に 17 施設であった。薬剤師の関りのある 34 施設での薬剤師の勤務形態は常勤5施設、非常勤 9 施設、委託 4 施設、常勤＋非常勤 1 施設、その他 15 施設であった。

薬剤師の勤務頻度は、週に数回が最も多く 10 施設であった。次いで毎日が 7 施設であった。薬剤師の業務内容は、調剤が最も多く 31 施設であり、次いで配薬カートへのセットが 12 施設であった。薬剤師が関わりのない施設での薬の管理は 25 施設中 24 施設が看護職員であった。薬に関するインシデントがあると回答した施設は 59 施設中 43 施設（72.9%）であった。その内訳は薬剤師の関りがある施設は 22 施設 64.7%（22/34）、薬剤師の関りがない施設は 21 施設で 84%（21/25）であり、薬剤師の関りがない施設ほど薬に関するインシデントがある傾向がみられた。

主なインシデントは飲み忘れが 26 施設、患者間違いが 23 施設、落薬が 16 施設であった。インシデントに対応している職種は主に看護師、薬剤師、介護士であり再発防止策の立案や職員への周知も実施している。薬についての疑問を調べた事のある施設は 59 施設中 56 施設であり 95%であった。その方法は薬剤師に確認が最も多く 47 施設、次いでインターネットが 44 施設、書籍が 29 施

設であった。職員向けに医薬品の安全使用に関する研修会を開催している施設は 59 施設中 23 施設（39%）であり、研修会の講師は、主に看護師、薬剤師、介護士であった。薬の安全使用に関する手順書の作成に関しては、59 施設中 29 施設（49.2%）が作成していた。検討中を入れると 36 施設（61%）が、薬の安全使用について、前向きに取り組んでいる。

利用者の服薬や薬の管理、福祉施設における薬の取り扱いについての意見等を以下に示す。

・業務等に関するマニュアル作成し遵守させることが大切である。
多くの福祉施設では服薬の間違いがないよう薬剤管理表を用いて、服用させている事が分かった。またマニュアルを作成し遵守させることで、危機意識を持ち業務に当たる事ができると考える。

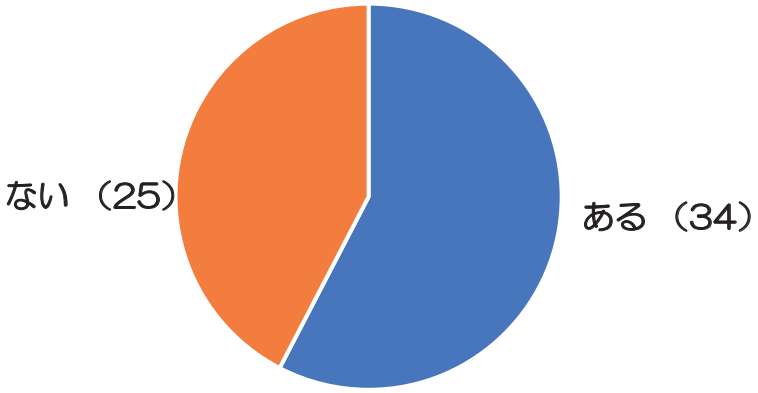
・薬に関する知識の向上と情報共有が大切である。
新薬を服用している入所者や専門性の高い疾患を抱えている入所者が増えている状況であり、薬に関する知識を得るための学習が必要である。わからない薬がある場合は、調べて他の職員との情報共有が大切であると考える。

・薬に関する研修会は必要である。
看護師のみならず服薬等に関わる介護職にも薬について簡単な知識の習得は必要であり、薬に関する研修会は必要と考える。結果、薬に関する知識を深め入所者への対応に反映することができる。

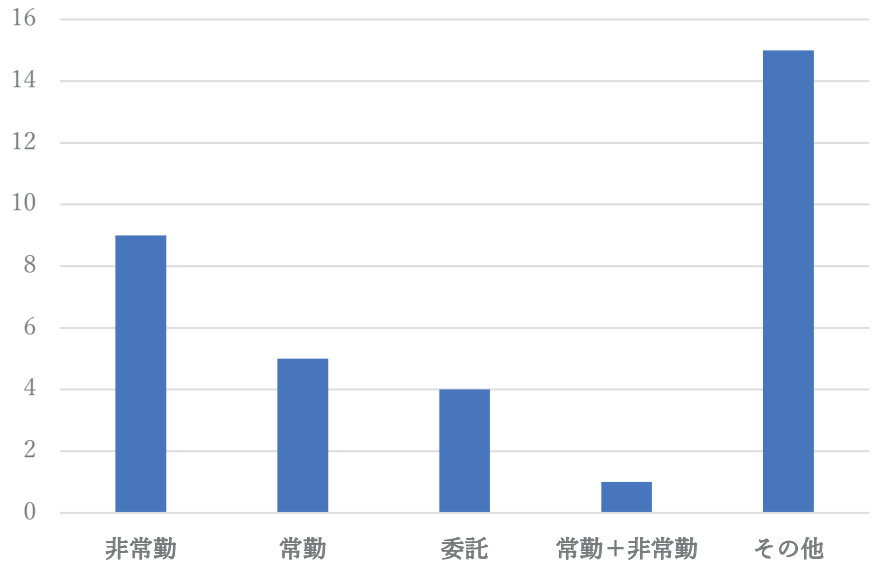
・薬の管理や与薬は、日常において各施設で実施されている業務ではあるが他の施設がどのように実施しているのか知りたい。

添付資料

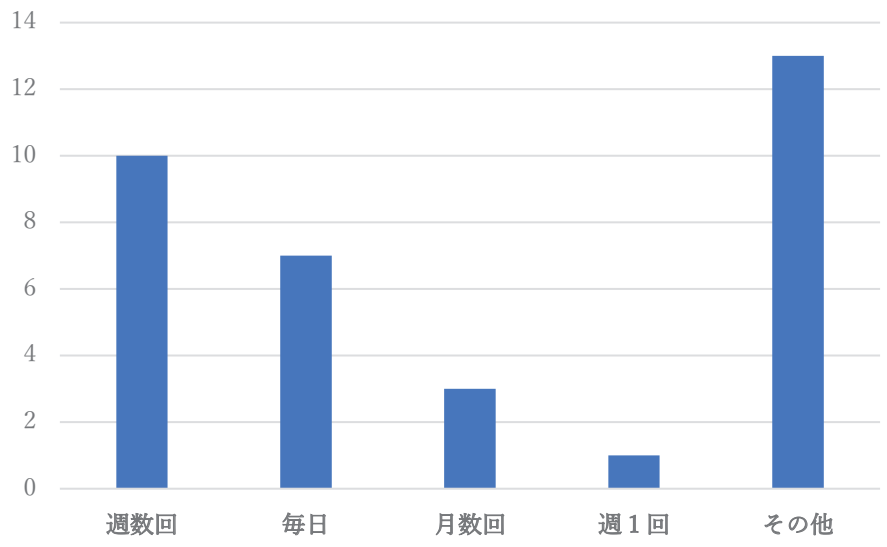
１．薬剤師の関りの有無　（ｎ＝59）



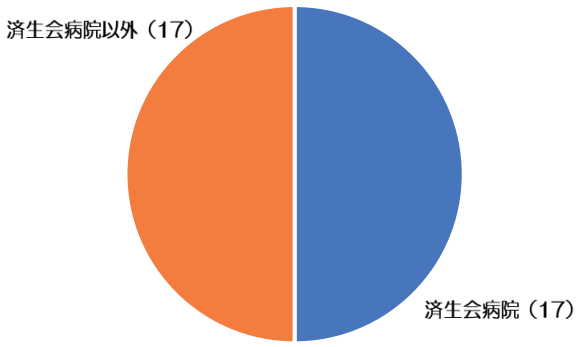
2-1.薬剤師の勤務形態 （ｎ＝34）



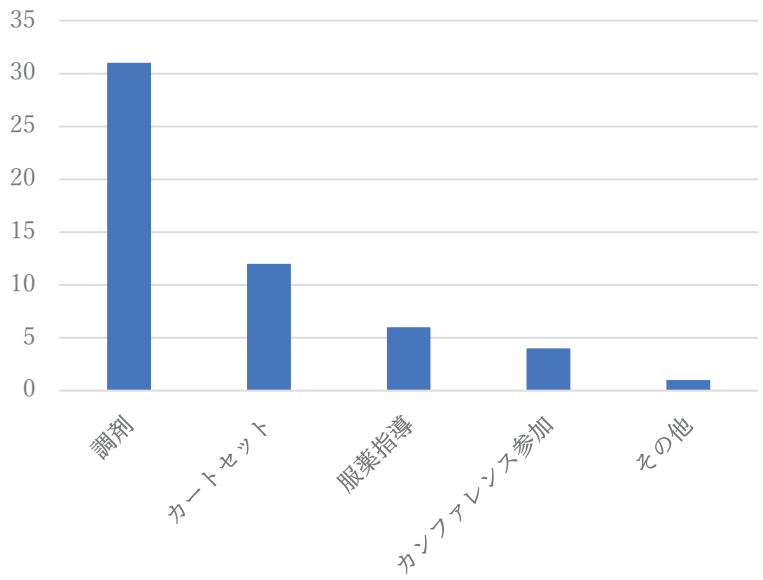
2-2.薬剤師の勤務頻度 （ｎ＝34）



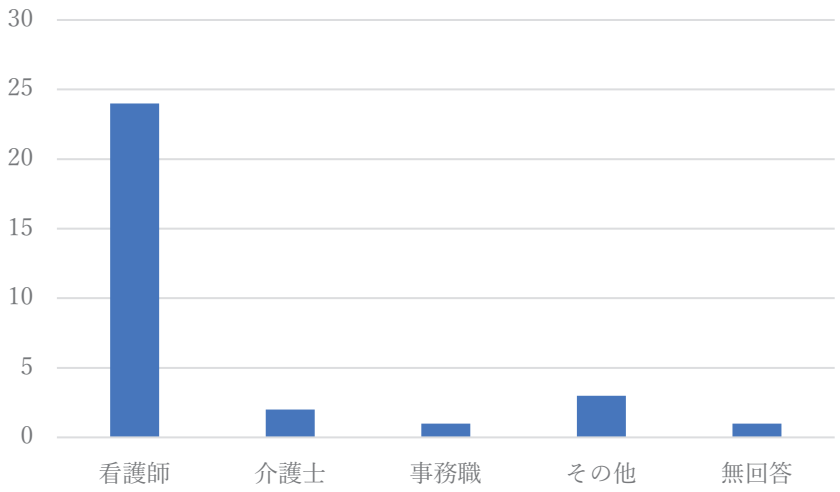
2-3. 薬剤師の所属　（n＝34）



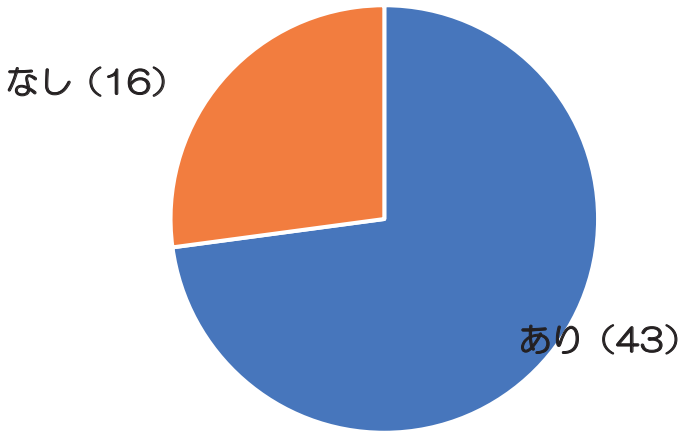
2-4. 薬剤師の業務内容（複数回答可）



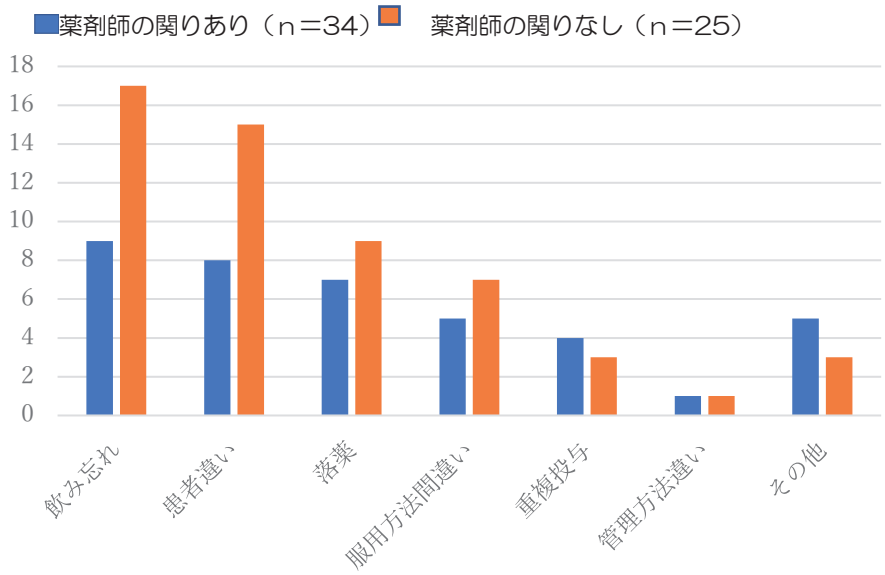
3. 薬剤師が関りのない施設での薬の管理をしている職種（複数回答可）



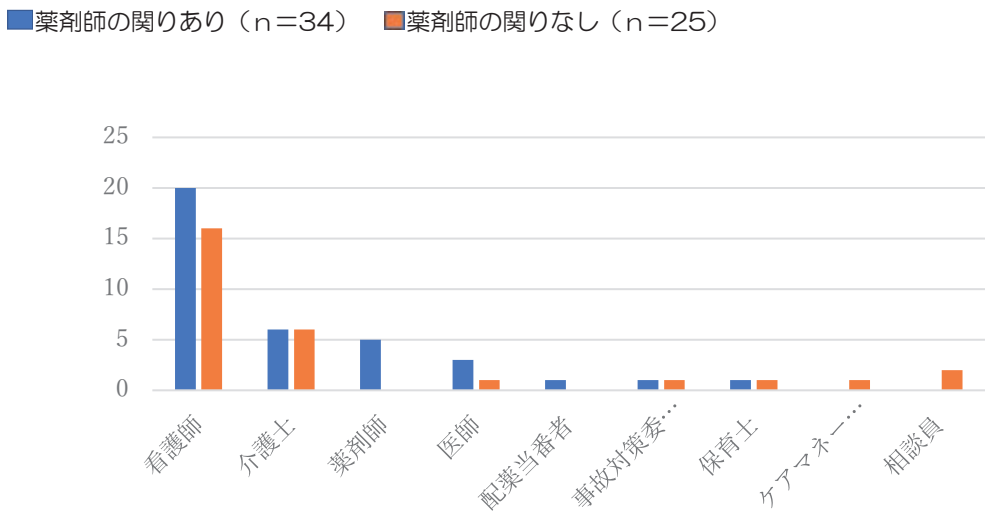
4. 薬に関するインシデントはあるか（ｎ＝５９）



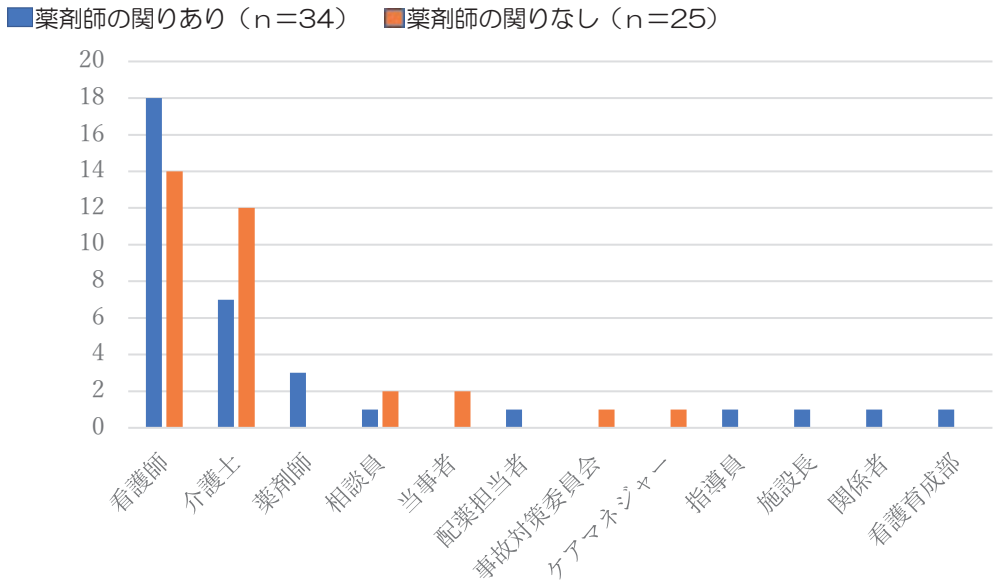
5-1 薬に関するインシデントの内容（複数回答可）



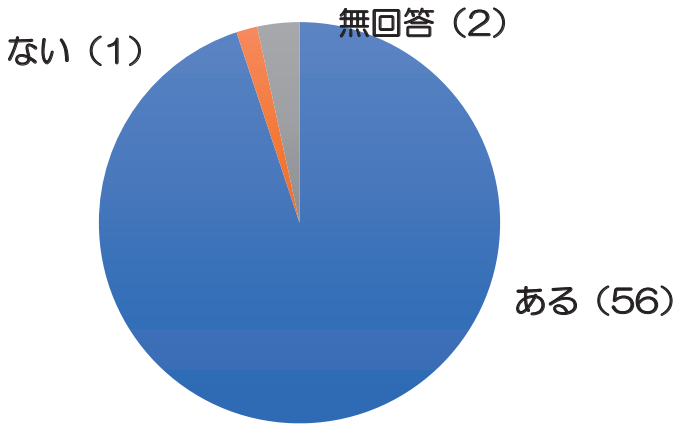
5-2 薬に関するインシデントに対応する職種（複数回答可）



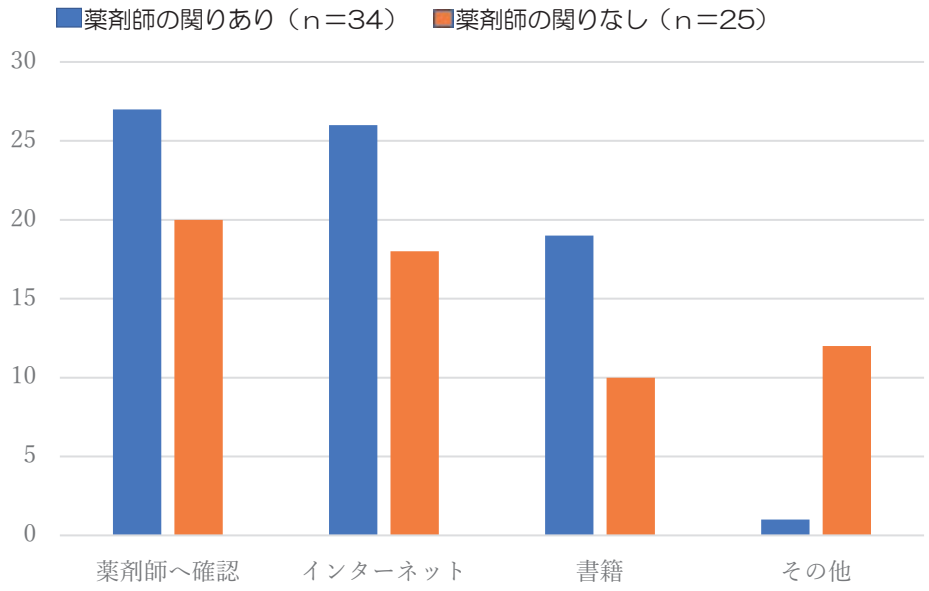
5-3. 再発防止策の立案と職員への周知をする職種（複数回答可）



6. 薬に関する疑問を調べたことがあるか　（n＝59）

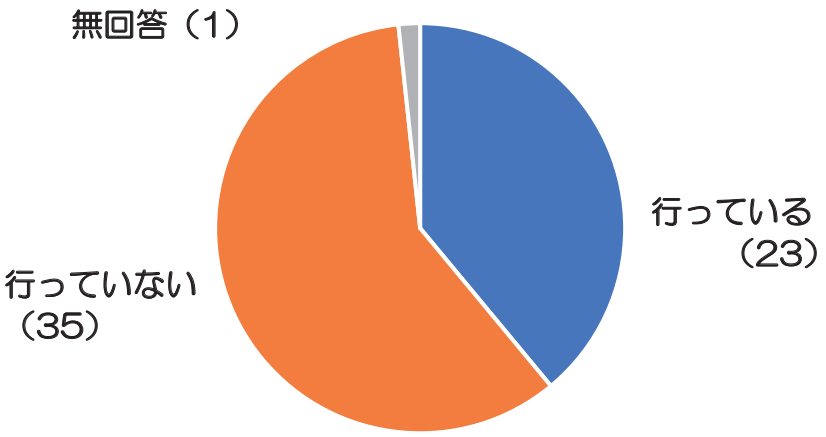


7. どのように調べたか（複数回答可）

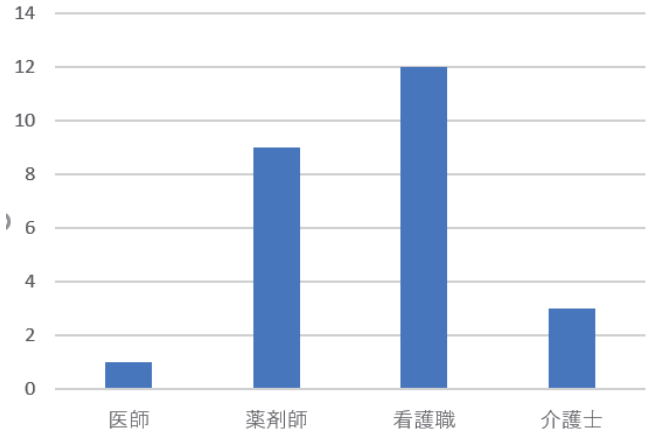


8．職員向けに医薬品の安全使用に関する研修会を開催しているか。

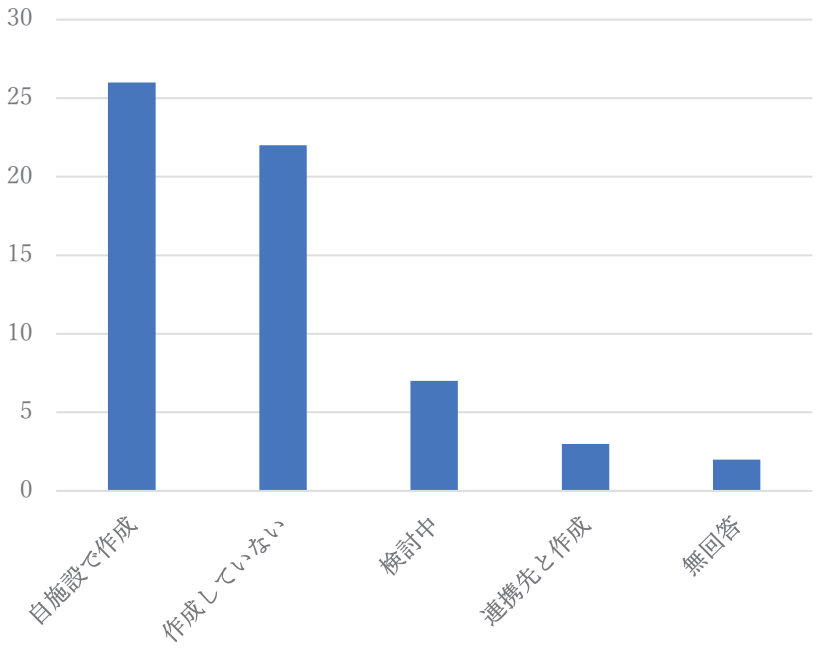
（ｎ＝59）



9．職員向けの医薬品の安全使用に関する研修会の講師の職種（複数回答可）



10．薬の安全使用に関する手順書の作成について　（ｎ＝59）



【考察】

福祉施設側の服薬等に関する調査を行ったことで薬剤師の関与の状況が見えてきた。又、具体的な問題点や要望も明らかになった。今後、薬剤師の支援についての検討を進めていきたいと考える。

今回の調査では 117 施設の調査を実施し 59 施設から回答があった。59 施設のうち 32 施設が介護老人福祉施設であり、薬剤師の施設基準がない。又、介護老人福祉施設は、事故の施設別発生件数も最も多いとされている。

人口の高齢化は世界的な課題である。2020 年における先進国における 65 歳以上の高齢者の割合はアメリカで 16.6%、カナダで 18.1%、イギリスで 18.7%、フランス 20.8%、ドイツ 21.7%、イタリア 23.3%、日本 28.1%であり最も高齢化率の高い国となっている。高齢化に伴い日常生活にサポートを必要とする高齢者も増加している。介護サービスを利用する高齢者はこの 20 年で 180 万人から 550 万人と約 3 倍に増加した。今後多くの高齢者が施設ケアを含む高齢者向け介護サービスの需要が増加していくと予想する。

多くの高齢者は慢性疾患に対して薬物治療を受けている。一般の高齢者の 5.8 種（2017 年厚労省調べ）に対し、高齢者介護施設では入所者の約 4 割が 9 種類以上の薬を服用していると事実がわかった。その事実から薬剤性の有害事象や薬剤関連のインシデントといった薬の使用に関わる安全性のリスクを抱えていると言える。高齢者の薬物療法の適正化が求められている。

高齢者福祉施設での事故は、転倒・転落、誤嚥、誤薬が上位を占めている。

転倒･転落にも薬が原因になることもあり高齢者福祉施設の職員は知識として覚えておく必要があると考える。今回の調査でも薬の飲み忘れ、患者間の誤薬、落薬、服用違いが上位を占めている。福岡県では誤薬のチェック項目にも挙げられている。できる限り複数の職員での確認をすることを推奨し、①介護職員が利用者の服用している薬の内容を理解できるよう、個人ファイル等での管理をしているか。②薬は一包化しているか。③薬を渡す途中での他の業務を行っていなか。④薬は朝・昼・夕だけでなく、食前・食後で分けているか。⑤薬は飲む直前に手渡しているか。⑥薬を手渡す際には薬に印字されている名前と利用者が一致しているか確認し、本人の氏名を確認しているか。⑦口に入れるまで確認しているか。⑧薬を飲みこむまで確認しているか。であり具体的に確認事項が示されている。

薬剤師が在籍している、又は、調剤で関わっている高齢者福祉施設では、前半で述べた薬剤性の有害事象の確認や評価も求められており、ポリファーマシー始め、さらなる医薬連携や情報共有が期待されている。

今回の高齢者福祉施設への調査から具体的な問題点や要望もみえてきた。又、薬剤師への調査では 17 施設が、高齢者施設への在籍をしていることも明らかになり全国済生会病院薬剤師会として介護の現場で必要な薬の知識を始め、高齢者福祉施設に寄り添い薬剤師の支援について、検討を進めていきたいと考える。

【結語】

今回、「高齢者福祉施設・児童福祉施設における服薬等の調査」を済生会病院 82 施設の薬剤部と高齢者福祉施設、児童福祉施設 117 施設に実施した。

調査結果から福祉施設の現状・具体的な問題点・要望が明らかになった。全国済生会病院薬剤師会として継続的に薬に関する情報提供ができるよう検討し、薬に関する研修会の企画等、支援を進めることで、より安全な薬学的ケアの実施に繋がると考える。

【参考資料】

1）入所前後の適切な投薬内容の評価は高齢者介護施設での薬物療法の安全性を向上させる。
京都府立医科大学　2022年6月16日
2）介護事故防止対応マニュアル作成の手引き
福岡県保健医療介護部介護保険課　平成31年3月
3）介護老人保健施設における薬剤処方の見直しと連携
第4回高齢者医薬品適正使用ガイドライン作成ＷＧ
2018年4月19日
4）高齢者の医薬品適正使用の指針 総論編　厚生労働省
2018年5月
5）高齢者医薬品適正使用検討会　厚生労働省
2017年

Survey on medication administration at Saiseikai welfare facilities for the elderly and child welfare facilities: A welfare facility investigation

Naomi Sogabe
Saiseikai Research Institute of Health Care Welfare

Abstract

Two surveys were conducted examining medication and related issues at Saiseikai elderly welfare facilities and child welfare facilities. The investigation examines how pharmacists at Saiseikai Hospital are involved. One survey targeted pharmacy departments and the other survey targeted welfare facilities. From these surveys, issues related to the use of drugs in welfare facilities were identified. This can clarify the types of support that can be provided by pharmacists related to the safety and appropriate pharmaceutical management of residents' medications.

1. Surveys related to medication administration at Saiseikai welfare facilities for the elderly and child welfare facilities (targeting pharmacy departments).
Purpose: This survey investigates issues related to medication administration in welfare facilities, and clarifies what types of support pharmacists can provide to maximize the safety and appropriate pharmaceutical management of residents' medications.
Method: A questionnaire was conducted with the pharmacy department managers of each hospital regarding cooperation with welfare facilities.
Target: 82 Saiseikai facilities (81 hospitals, 1 welfare facility).

2. Surveys related to medication administration at Saiseikai welfare facilities for the elderly and child welfare facilities (targeting welfare facilities)
Purpose: This survey investigates issues related to medication administration in welfare facilities, and clarifies what types of support pharmacists can provide to maximize the safety and appropriate pharmaceutical management of residents' medications.
Methods: A questionnaire was conducted with the facility managers of each facility regarding issues related to
Target: Long-term care health facilities for the elderly, welfare facilities for the elderly, child welfare facilities, welfare facilities for people with disabilities, facilities for children with severe mental and physical disabilities, etc.

This paper describes surveys related to medication administration at Saiseikai welfare facilities for the elderly and child welfare facilities (targeting welfare facilities).

Keywords
Elderly welfare facilities, child welfare facilities, incident, medical safety, pharmacist support